

**令和 6 年度山形県ヤングケアラー・コーディネーター配置業務の
企画提案書に必要な記載事項**

1 実施方針

- ・本事業の趣旨・目的を踏まえ、どのような考え方、方針で取り組むか。
- ・潜在化している可能性が高いヤングケアラーの問題に対し、積極的なアウトリーチを行うにあたってコーディネーターが担う役割をどのように考えるか。

2 ヤングケアラー・コーディネーターによる支援体制強化業務

(1) ヤングケアラー・コーディネーターの選任・配置

- ・コーディネーターの選任・配置の考え方（資格、経歴、配置先等）
- ・コーディネーターの確保状況・見込み

(2) 関係機関等からの相談支援・助言等

- ・関係機関等からの相談・問合せにどのような体制・手法で対応するか。
（2名の役割分担、専用窓口の設置、電話、メール、SNSの活用 等）

(3) 関係機関等への訪問による普及啓発及び実態等の調査

- ・普及啓発や実態把握するうえで効果的な訪問先（関係機関等）の考え方
- ・訪問体制（2名の役割分担）、頻度等、訪問による啓発・調査の手法

※個別家庭の直接訪問・支援を主たる業務とするのではなく、県のコーディネーターとして、市町村をはじめとする支援等を行っている関係機関等への訪問活動を想定。（ただし、その一環としての個別家庭への対応を妨げるものではない。）

※2名の役割分担の1例として、担当エリアを①村山・置賜、②最上・庄内と大きく2つに分けることも想定されるが、効果的な役割分担を検討すること。

※児童福祉分野と教育分野の連携強化が重要であることも踏まえた訪問活動の手法を検討すること。

(4) 研修会の企画運営等

- ・目的、対象者、内容（想定されるテーマ、講師、会場、時期、参加人数 等）
- ・対象者への周知方法（どのような手法で参加者を募るか）
- ・コーディネーター自身の知見の習得のための手法

(5) 民間団体との連携推進

- ・民間支援団体のヤングケアラーへの対応状況の把握や各種情報の周知・意識啓発をどのように進めるか。
- ・それぞれの団体同士や、団体と関係機関との連携・ネットワーク化をどのように進めるか。

※現在県内でヤングケアラーの支援に特化した民間団体等は把握していないが、県内の子育て支援団体や若者支援団体、子どもの居場所づくり活動団体など、それぞれの団体の相談支援活動の中で結果的にヤングケアラーへの相談にも対応しているケースもあるものとする。それらの団体等の状況を把握し、情報提供や意識醸成を行うことで、今後のヤングケアラー支援の担い手として確保・育成につなげていくことを想定している。

3 実施体制

- ・業務責任者、業務担当者、フォローアップ体制
- ・福祉、介護、教育などの各分野の関係機関との連携をどのように進めるか。その基盤はあるか。